

パリ American Hospital of Paris での透析体験

2017年7月にパリの American Hospital of Paris で透析を受けました。

海外医療支援協会から他にもいくつか紹介を受け、そこは費用も良心的でしたのでメールしたのですが、待てど暮らせどなかなか返事が来ません。2週間ほど経ってようやく返事が来たと思ったら、私が希望する日あたりからは改装工事を予定しており受け入れ出来ないとの返事。だったらもっと早く返事を寄せよと思いました。

時間がなくなり、仕方なく、費用は高いが日本人対応チームがいるという American Hospital of Paris に試しに日本語でメールしてみました。すると、すかさず返事が来ました。

その後、何度かメールでやり取りしましたが、とにかく、ここの病院は透析に関する記入要求事項が多く、肝炎の検査はもとより、直近の透析カード、挙句の果ては出発直前になって、こちらの病院でもできるが、多剤耐性菌の検査し、その結果を送って欲しいと言われました。仕方なく通院している病院にお願いして検査してもらいましたが、培養に時間が係るのか結果が出るまでに1週間ほどかかるといわれ、もう出発までには間に合わないので病院から検査結果を直接 American Hospital of Paris に送ってもらうことにしました。ここの病院で透析時に検査しても、結果が出る頃には、もう既に帰国しているのに、何のために必要なのだろうと思いました。

透析当日は朝7時45分に来てほしいと言われ、オペラ座近くのホテルからタクシーで行きました。病院は郊外にありましたが、それでも所要時間は20分前後だったでしょうか。料金は27ユーロ程でした。ここの病院は総合病院で、受付で透析センターを教えてください指示に従って下の階に降りて行くと、透析室では既に準備され、私が来るのを待っていました。

まず、体重を測り、次に、腕を洗うよう指示され、そこには液体石鹸とペーパータオルが備え付けられていました。透析機は十数台位だったでしょうか。私は事前にリクライニングシートを希望しましたが、希望すれば別途追加料金で個室ベッドもあるようです。私は家庭透析しているので自己穿刺し、透析が始まると、朝食にパンとマグカップになみなみと入った紅茶、それにオレンジジュースまで出されました。私の拙い英語でも用は足せました。

メールでの予告通り、9時頃になって白衣を着た日本の女性の方が来られました。私は、てっきり今まで男性の医者とやり取りしていたとばかり思っていたら、やり取りしていたのは、この方だったのでビックリしました。しかも、この方は医者ではなく医療通訳者だということが分かり2度ビックリ。この方は渡邊さんといい山形出身で、もうここに十数年勤務しているとのことでした。他にもう1人日本人の医療通訳者と医者がいるとのことでした。ここの病院の名前は American Hospital ですが、医者はほとんどがフランス人、パリで病院と名の付くところは国立だが、ここは私立の総合病院とのことでした。日本人の透析が年間20人位あるそうです。

4時間透析も順調に終わり、その頃には、渡邊さんが、渡していた診療明細書とそれを翻訳したものを持ってきてくれました。翻訳文まで書いてもらえとは思いませんでした。その後、支払い窓口まで案内してもらい、透析費用552ユーロ（リクライニングシートの場合）と診察費320ユーロ合わせて872ユーロを現金で払いました。また、帰りのタクシーも呼んで貰いました。

ここは値段もいいが、なかなか私には快適な病院でした。透析すること自体はどこの病院でも

変わりませんが、病院に対応してくれる日本人がいると何かと心強いものがありました。